

幼児性情の涵養 (一)

倉 橋 惣 三

今夏の講習會に於ける講演の筆記ですが、忙しいので充分加筆、校訂する暇がなく、極く大要の筋を略叙せるに過ぎません。諒讀を乞ひます。

はじめの言葉

今回は、幼児性情の涵養についてお話し申し上げたいと思ひますが、先づ、そのはじめの言葉を申し上げます。

私自身としまして、従來、保育に就てずつと述べて参りましたことは、多くは保育方法の形態に關するものであります。つまり保育といふ一つの仕事が如何なる形に於いて行はれるのが正しいか、といふことを問題としたのでした。その形態論の大體の傾向としては、或ひは少し言ひ過ぎると思はれたかも知れませぬ程に、生活の自然の形態を尊重しました。その爲或は、自由主義だとも言はれたりしました。兎に角く、子供の生活形態は極く原始的で、従つて保育形態論として見て、その仕事の形式は織

細よりは粗大に、きちようめんより 大まかにあるのが適當だと申して參りました。従つて、保育形態論に於いて平生私の申す通りのことが、そのまゝ實現されたとしますれば、幼稚園は相當粗野な外観を持つ傾きが無いでもないのであります。皆さんの様に、こと細やかに、最も高尚な文化に達せられた方からは、多分お氣に召さない幼稚園が實現するであります。勿論、私として、粗野そのことが好きなのではありません。而かも敢へて、それを主張して來ましたのは、粗野その者に價值あるためではないが、生活形態を左様な風に置きませぬと幼児の純な生活を毀しやしないかと恐れただけであります。幼児は我々の與へる生活形態の中に、それに支配されて生活しますので、弱く、軟らかく、外からの支配におさへられ易い者でありますから、細やかな、或ひは高尚過ぎる形態を與へますと、幼児はその中に窮窟に閉ぢこめられて、一番根本の純を失ふおそれがあります。この純を失つては、他の如何なる事が成り立ちませうとも、幼児としてのねうちがなくなりませう。それで、形態その者としては好ましくないところがあつても、なるべく自然的にと考へて來たのであります。純といふことは幼児自身が元來持つて居るもので、幼児の生活中で、幼児獨得の價值があるとすれば此の純であります。他のものは大したねうちがあるものではありません。我々幼児の身方といへども、その能力や完全性などに大した偉さを認め得ません。が、純といふ點では多くの修養を遂げた人でも及ばないものが幼児にあると信じます。保育形態を誤つて、それを失はせるやうなことがあつてはならぬと考へてゐるのであります。

しかし、純なるものを純に保存するといふだけでは保育の任務は終りません。純を失はせては決してなりません、純のまゝで、その内容をもたねばなりません。その内容は善といふことになりませんが、つまり、純を價值づけなければならぬ譯です。ところで、幼稚園令を見ますと、幼稚園の目的として、「心身ヲ健全ニ發達セシメ」といふこと、「善良ナル性情ヲ涵養シ」といふこと、二つが書いてあります。この初めの方の健全なる心は、つまり、純を保つ途であるとも考へられます。それに對して、善良ナル性情といふ時、純の上に善良といふ價值が加はつて來る譯です。すなはち、心身を健全に發達せしめ、幼兒として純を失はせぬと共に、性情の善良を期せなければならぬので、そこでは、單に自然にとのみ打ち任せて置けない注意が必要になります。そして、その注意には性情をどういふ方向に養つてゆくかといふ目標を必要とする譯で、私の之れから考へてゆきたいのは、つまり其の點であります。こゝに、保育形態論の外に、保育目標論が生ずる次第なのです。

それには先づ、性情とは如何なる事を意味するか、それから見えてゆかねばなりません。

これは、幼稚園令がどこ迄心理學的に學術的に限定して使つて居りますか、或ひは常識的に使つて居りますか、つき止めるのはむづかしいですが、普通に次の様に考へてよいかと思ひます。性情といふ言葉は、「一人の人間が本質的に、實質的に、どうあるかといふことである」その人がどうあるかといふこ

とは英語の to be で、to be ではありません。知識や技能はその人の働きであります。性情は、たゞらさ
ではなくしてどうあるかであります。意志は、その人の生活がどう纏まりがついて居るかでありますが、
性情はたゞ、どうあるか、であります。少し奇妙な言ひ方ですが、こゝに人がねて居るとします、起き
て居る時は如何に立派な知能の人でありませうとも、ねて居る時は知能低い人と同様であります。寝て
居る時は知能があつても無くても同じ様なものです。意志も同様、寝て居ります時は變りありません。
然し乍ら性情は、寝て居る時も、その人がそうあるであらう様に在ると思ひます。人がその持つてゐる
性情と同じ様な夢を見ることは確實な事でありませう。つまりこんな具合で、性情とは、その人が、實
質的に本質的に、どうあるといふことであります。如何なる知能ある人といへどもうつかりして居る時に
馬鹿らしい事をしますが、性情のうつかりする時はありません。但、實際生活では、其の人がどうある
かといふことは、知能や意志とまざつて結びついて居ります。知識、意志、と分けて申すにしても、別
個の事ではなく、異つたものに分けて考へて見ただけで、實際生活ではいろ／＼終ひついて現はれるの
であります。その爲に、實際上では、悪い意志を持つて居ながら弱い性情のために實行に出なかつたり
或は知能の働きが悪いので性情が過つて現はされるかも知れません。或は、性情としては大したもの
はない人が只賢さと意志の強さで適當な生活々外面的に行ふのがある。又、あの人は駄目なんだね、け
れども根はいゝ人なんだよ」とよく云ひます。生活の外に出た所は望ましくないけれども、實質的、本

質的な所はよいといふ意味に他なりません。

次に、性情がこういふものである以上は人生基本教育を引き受けて居ります幼児教育で、その涵養が如何に必然なものであるかも考へられます。殊に性情教育が實質的本質的に、寢て居てもあらそへぬ程その人に即いて居るとすれば、そんなものは極く幼時から養はれなければ、到庭眞實に養はれぬものだといふことも強く考へられます。我國では昔からの言葉に「六十の手習ひ」といひます。アメリカのソ・ンダイクも人間の學習能力の定年を研究しまして、同じやうのことを言つて居る位で、即ち、知能の方は三歳でやりましても五十歳の時にやりましても無理なく出來ます。意志は知能よりむづかしいから遅く初めては十分な事は困難でありませうが、それでも、少年期後にも其の教育が出來ませう。ところが性情は、その人の實質的本質的のものですから、訂正したり、矯正したり、抑へたり、ためたり、削つたり、慎しんだり、戒めたりすることは後になつては、全然不可能ではありませんが、非常に／＼困難になります。殊に若しも幼児の性情といふものがある年齢迄白紙、で行けるなら、その後になつてから修養をやつてもよろしいが、性情は生れて直ぐからのことで、白紙や空つぽでは一時も過ぎて行きません。でありますから極く幼い時から注意を要します。恐らく幼稚園に來る前に、餘つ程性情が出來てしまつて居るかと思ふ位です。

この考へ方から、幼兒の性情の涵養が私にもしつかりした結論は正直にいへば出て居りません。

ところで、性情そのものを如何に育て、行くべきかといふ問題になります、それに就て私は斯ういふ風に考へて置く必要があると思ひます。――善悪は高い倫理的到達である、それを幼児に求めたつて出来るものでない。將來に於て眞に到達を期待し得る基本的なものはどんなものであらうか。これを發見することが第一である。しかも、性情の、到達點と結論はやさしいが、性情の出發點を探することはむつかしい。これが今回の中心問題であります、私は試みに次の様に探し出してみました。

(一) 心もちのありやう

一、ほがらかさ、すなほさ 二、したしみ、うれしみ 三、心もちの上品さ

(二) 生活への態度

一、正義感の發達 二、信義感の發達

(三) 文化價值への態度

一、善への指向 二、美への指向 三、聖への指向

極めて平らな言葉で表はしました。かたい言葉は大人の倫理で使ふので、却つて混雑を來しますから避けました。又、人間性情の中で、何處迄おしつまるるかといふ最基本を見出して、これを幼時期で養ひたいと思ふのであります。